

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	県立農業大学校
設置者名	宮崎県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	農学科	夜・通信	6単位 180時間	6単位 160時間	
	畜産学科	夜・通信	6単位 180時間	6単位 160時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

教務学生課の窓口における文書閲覧

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	県立農業大学校
設置者名	宮崎県

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	外部評価委員会
役割	<p>○審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学校の重点目標、評価項目に関すること。</li> <li>・ 大学校の教育活動（教育課程、学生の進路指導、インターンシップ等の研修等）のあり方。</li> </ul> <p>○意見の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重点目標や評価項目について調整を図る。</li> <li>・ 授業内容や教育方法に反映させる等、教育水準の向上に活用している。</li> </ul>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
農業関係団体 専務理事	在任期間	卒業生の就職受入れ
農業法人組織 会長	在任期間	在校生の研修受入れ 卒業生の就農受入れ
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	県立農業大学校
設置者名	宮崎県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>[授業計画(シラバス)の作成過程]</p> <p>① 前年度のカリキュラム委員会において次年度のカリキュラムを決定                  ② 各学科において「授業計画(シラバス)」(案)を作成                  ③ カリキュラム委員会において点検、修正                  ④ カリキュラム委員会から運営委員会へ提案、適宜各学科において修正                  ⑤ 校長の決裁により決定</p> <p>[授業計画(シラバス)の作成・公表時期]</p> <p>① 次年度のカリキュラムは、前年度の10月より検討を開始し、12月末に決定                  ② 1月より、各学科において「授業計画(シラバス)」(案)を作成                  ③ 校長の決裁により決定                  ④ 当該年度の4月初旬に公表</p>					
授業計画書の公表方法		本校教務学生課に備え付けており、閲覧可能。また申請により配付することも可能。			
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(1) 年度初めにシラバス等を学生に配布し、各科目の内容及び評価方法・基準を周知する。                  (2) 科目担当者は、試験や研修報告書、出席状況などにより、次の基準で学生の成績評価を行う。</p>					
講義、演習	知識 70点	学習態度 20点	出席率 10点		
実験、実習	知識 30点	技能・技術 30点	学習態度 20点	出席率 20点	
プロジェクト学習	技能・技術 30点	学習態度 30点	記録 20点	出席率 20点	
学外研修	研修日誌 20点	研修報告書 30点	研修評価書 30点	出席率 20点	
海外農業体験研修	研修態度 30点	研修報告書 40点	出席率 30点		
卒業論文	テーマ設定 10点	研究内容 20点	データ整理 20点	論点整理 20点	自主的取組 30点
<p>(3) 科目担当者は、100点満点で評価し、4段階(優・良・可・不可)で評定を出す。</p> <p>(4) 単位修得や履修の認定は、成績評価をもとに運営委員会で審議し、(3)の結果に基づき、校長が認定する。</p>					

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・指標の算出方法

$$GPA = \frac{\text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0}{\text{受講登録した科目の合計単位数(「不可」や途中で受講を中止した科目を含む)}}$$

- ・学科毎に成績分布状況を把握している。
- ・年2回の成績審議の他、各学期途中に単位修得及び出欠状況について把握し、成績不振者については通知表以外に奮起を促す文書を本人と保護者へ送付
- ・進級や卒業が危ぶまれる学生については保護者同伴で単位修得状況及び出欠状況を説明

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

本校教務学生課に備え付けており、閲覧可能。また、申請により配付することも可能。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業の認定に関する方針

- ① 専攻に関して「生産する力」を身につけること。
- ② 専攻に関して「経営する力(経営スキル)」を身につけること。
- ③ 専攻実習における『プロジェクト学習』で「課題を解決する力」を身につけること。
- ④ 校外研修や学生自治会活動をとおして社会性を身につけること。

・卒業の認定要件

「教育計画書における科目の中から全ての必修科目を含む 80 単位以上の修得及び授業時数 1700 時間以上の授業科目の履修のいずれをも満たすことを要件とする。」

・卒業認定の手順

卒業の認定にあたっては、教務学生課が卒業の条件を満たしていることを確認できる成績審議資料を作成の上、運営委員会において審査し、校長決裁により卒業を認定する。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

本校教務学生課に備え付けており、閲覧可能。また、申請により配付することも可能。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	県立農業大学校
設置者名	宮崎県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・作物専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1, 700単位時間/ 80単位	240単位 時間/ 16単位	480単位 時間/ 32単位	1,590 単位時間 53/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2, 310単位時間/101単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
67人の内数		16人	0人	2人	13人	15人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・野菜専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1, 700単位時間/ 80単位	240単位 時間/ 16単位	480単位 時間/ 32単位	1,590 単位時間 53/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2, 310単位時間/101単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
67人の内数		20人	0人	2人	13人	15人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・花専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1, 700単位時間/ 80単位	240単位 時間/ 16単位	480単位 時間/ 32単位	1,590 単位時間 53/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2, 310単位時間/101単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
67人の内数		9人	0人	1人	14人	15人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・果樹専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1, 700単位時間/ 80単位	240単位 時間/ 16単位	480単位 時間/ 32単位	1,590 単位時間 53/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2, 310単位時間/101単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
67人の内数		12人	0人	1人	14人	15人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・茶専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1, 700単位時間/ 80単位	255単位 時間/ 17単位	465単位 時間/ 31単位	1,590 単位時間 53/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2, 310単位時間/101単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
67人の内数		0人	0人	1人	14人	15人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・フードビジネス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1, 700単位時間/ 80単位	255単位 時間/ 17単位	450単位 時間/ 30単位	1,560 単位時間 52/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2, 265単位時間/99単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
67人の内数		10人	0人	2人	13人	15人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	畜産学科・肉用牛専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1, 700単位時間/ 80単位	345単位 時間/ 23単位	360単位 時間/ 24単位	1,560 単位時間 52/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2, 265単位時間/99単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
55人の内数		40人	0人	2人	9人	11人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	畜産学科・酪農専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1,700単位時間/ 80単位	345単位 時間/ 23単位	360単位 時間/ 24単位	1,710 単位時間 57/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2,415単位時間/104単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
55人の内数		11人	0人	1人	10人	11人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	畜産学科・養豚専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1,700単位時間/ 80単位	345単位 時間/ 23単位	360単位 時間/ 24単位	1,560 単位時間 52/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2,265単位時間/99単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
55人の内数		1人	0人	2人	9人	11人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	畜産学科・フードビジネス専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 課程	1,700単位時間/ 80単位	255単位 時間/ 17単位	450単位 時間/ 30単位	1,560 単位時間 52/単位	0単位時 間/ 0単位	0単位時 間/ 0単位
			2,265単位時間/99単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
55人の内数		3人	0人	1人	10人	11人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) [農学科・畜産学科]
<p>[授業方法] 講義、演習、実習による授業を実施している。</p> <p>[設置科目の区分] ○教養科目はすべて学年共通科目である。 ○専門科目には、学年共通科目、学科共通科目、専攻共通科目がある。</p> <p>[科目登録の区分] ○1年生については、単位修得を進級・卒業要件としている「必修科目」、授業への出席を進級・卒業としている「履修科目」、学生の判断で受講登録をする「選択科目」がある。 ○2年生については、学校が受講を指定する「共通科目」、学生の判断で受講登録をする「選択科目」がある。</p> <p>[科目の内容] ○農業・食品等、専門に関する科目を設置している。 ○専門に関する科目以外に進路支援のための科目を設置している。</p>

[授業計画（シラバス）の作成過程]

- ① 前年度のカリキュラム委員会において次年度のカリキュラムを決定
- ② 各学科において「授業計画（シラバス）」（案）を作成
- ③ カリキュラム委員会において点検、修正
- ④ カリキュラム委員会から運営委員会へ提案、適宜各学科において修正
- ⑤ 校長の決裁により決定

[授業計画（シラバス）の作成・公表時期]

- ① 次年度のカリキュラムは、前年度の10月より検討を開始し、12月末に決定
- ② 1月より、各学科において「授業計画（シラバス）」（案）を作成
- ③ 校長の決裁により決定
- ④ 当該年度の4月初旬に公表

成績評価の基準・方法 [農学科・畜産学科]

(概要)

1 成績評価の方法

- (1) 年度初めにシラバス等を学生に配布し、各科目の内容及び評価方法・基準を周知する。
- (2) 科目担当者は、試験や研修報告書、出席状況などにより、次の基準で学生の成績評価を行う。

2 各科目等の評価項目

授業形態	評価項目及び評価点数配分 [100点満点]				
講義、演習	知識 70点	学習態度 20点	出席率 10点		
実験、実習	知識 30点	技能・技術 30点	学習態度 20点	出席率 20点	
プロジェクト学習	技能・技術 30点	学習態度 30点	記録 20点	出席率 20点	
学外研修	研修日誌 20点	研修報告書 30点	研修評価書 30点	出席率 20点	
海外農業体験研修	研修態度 30点	研修報告書 40点	出席率 30点		
卒業論文	テーマ設定 10点	研究内容 20点	データ整理 20点	論点整理 20点	自主的取組 30点

- (3) 科目担当者は、100点満点で評価し、4段階（優・良・可・不可）で評定を出す。

- (4) 単位修得や履修の認定は、成績評価をもとに運営委員会で審議し、(3)の結果に基づき、校長が認定する。

卒業・進級の認定基準 [農学科・畜産学科]

(概要)

・進級の認定

進級の認定は、運営委員会において審査し、その結果に基づいて校長が行う。その場合、教育計画書における全ての科目の中から40単位以上の単位修得かつ授業時数850時間以上の科目を履修することを要件とする。

・卒業の認定

卒業の認定は、運営委員会において審査し、その結果に基づいて校長が行う。その場合、教育計画書における科目の中から、全ての必修科目を含む80単位以上の修得及び授業時数1,700時間以上の授業科目の履修のいずれをも満たすことを要件とする。

学修支援等 [農学科・畜産学科]

(概要)

・年2回の成績審議の他、各学期途中に単位修得及び出欠状況について把握し、成績不振者については通知表以外に奮起を促す文書を本人と保護者へ送付

・進級や卒業が危ぶまれる学生については保護者同伴で単位修得状況及び出欠状況を説明

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載) [農学科]

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	3人 (7.7%)	36人 (92.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 就農(自営、雇用)、農業団体、農業・食品関係企業			
(就職指導内容) ・ハローワーク面談(個別面談) ・農業法人や農業関連企業等との就職面談会 ・マナーアップ講座、進路講話			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・大型特殊車両免許(農耕用)      ・けん引(農耕用) ・日本農業技術検定                  ・農業簿記検定 等			
(備考) (任意記載事項)			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） [畜産学科]			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	1人 ( 3.3%)	28人 ( 93.3%)	1人 ( 3.3%)
(主な就職、業界等) 就農（自営、雇用）、農業団体、農業・食品関係企業			
(就職指導内容) ・ハローワーク面談（個別面談） ・農業法人や農業関連企業等との就職面談会 ・マナーアップ講座、進路講話			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・大型特殊車両免許（農耕用） ・家畜人工授精師 ・けん引（農耕用） ・2級認定牛削蹄師 等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状 [農学科]		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
79人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

中途退学の現状 [畜産学科]		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	1人	1.7%
(中途退学の主な理由) ・就学意欲の衰退		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
○中退防止のための取組 ・学科職員及び教務学生課職員によるカウンセリング		
○中退者支援のための取組 ・中退後の就職先の紹介（農業生産法人の情報提供と面接指導等）		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
農学科	5,650 円	118,800 円	(寮生) 1,160,000 円 (通学生) 1,058,000 円	2年間の預かり金(教材、制服、 研修費等)
畜産学科	5,650 円	118,800 円	(寮生) 1,160,000 円 (通学生) 1,058,000 円	2年間の預かり金(教材、制服、 研修費等)
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>[授業料免除]</p> <p>○対象者</p> <p>ア 火災、風水害等により災害を受け、家計に重大な支障を生じた者</p> <p>イ 生活保護法(昭和25年法律第144号)の規程による保護を受けている世帯に属する者</p> <p>ウ 当該年度に納付すべき地方税法(昭和25年法律第226号)の規程による市町村税が非課税となる世帯又は均等割のみとなる世帯に属する者</p> <p>エ その他やむを得ない事情がある場合については、免除を受けようとする者の申し出により、知事が個別に判断を行うものとする。</p> <p>○免除の期間及び額</p> <p>ア 授業料の免除を行う期間は、認定の始期から当該年度の最終月までの範囲内とする。</p> <p>イ 認定の始期が4月の場合の授業料の免除の額は、各期分の授業料の全額とする。ただし、認定の始期が各期の途中の場合は、授業料の年額の1/2に相当する額に免除期間の月数を乗じて得た額とする。</p>				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www.majc.pref.miyazaki.lg.jp">http://www.majc.pref.miyazaki.lg.jp</a>
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)
<p>1 名称 県立農業大学校 外部評価委員会</p> <p>2 設置目的 本県農業の担い手育成のために求められる質の高い教育を提供するとともに、地域に根ざした開かれた大学校づくりを推進し、大学校の自律的改善を図る。</p> <p>3 所掌事務</p> <p>(1) 大学校の評価システムに関すること。</p> <p>(2) 大学校の重点目標、評価項目に関すること。</p> <p>(3) 農大校の教育活動(教育課程、学生の進路指導、インターンシップ等の研修等)のあり方について審議し、その内容を大学校へ提言すること。</p> <p>(4) その他大学校の評価に関する重要事項に関すること。</p>

#### 4 組織の構成

- (1) 委員会は、委員長及び9名の委員をもって組織する。
- (2) 委員は農業関係団体、大学校同窓会、農業法人、農業関連法人、教育関係の有識者等から大学校の教育に関わりのある人物へ委嘱する。
- (3) 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。
- (4) 委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名したものがその職務を代理する。

#### 5 体制

委員会の会議（以下、「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。  
委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

#### 6 評価結果の活用方法

授業内容や教育方法に反映させる等、教育水準の向上に活用している。

#### 学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
宮崎県農業協同組合中央会	在任期間	卒業生の就職受入れ
宮崎県農業法人経営者協会	在任期間	卒業生の就農受入れ プロジェクト学習連携 在校生の研修受入れ
宮崎県地域営農組織協議会	在任期間	卒業生の就農受入れ プロジェクト学習連携 在校生の研修受入れ
県立農業大学校同窓会	在任期間	卒業生の就農受入れ プロジェクト学習連携 在校生の研修受入れ

#### 学校関係者評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<http://www.majc.pref.miyazaki.lg.jp>

#### 第三者による学校評価（任意記載事項）

#### c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<http://www.majc.pref.miyazaki.lg.jp>